

依存型意味論によるモダリティと照応の統一的分析に向けて

飯村 葵（指導教員：戸次大介）

1 はじめに

自然言語には様々な言語現象が存在しており、形式意味論では数多くの理論が分析を与えてきた。そのような理論の一つに、本研究で採用する、依存型意味論 (dependent type semantics, DTS)[1] がある。DTS は依存型理論 (dependent type theory, DTT)[2] に基づく自然言語の意味論である。本研究は、DTS により、様相 (modality) の分析を試みる。DTS は、照応など複雑な言語現象を扱う理論だが、モダリティとの関係に着目する研究はあまりなされていない。

本稿が対象とする modal subordination は、モダリティを伴う談話における照応現象であり、Roberts [3] により指摘された。modal subordination の例を (1)(2) に示す。

- (1) A wolf might come in. #It growls.
- (2) A wolf might come in. It would growl.

モダリティを伴う談話では、E タイプ照応 [4] が到達可能ではなくなることがある。たとえば、(1) では、代名詞 *it* が E タイプ照応の先行詞として *a wolf* を指すことはできない。¹ 一方、2 文目にモダリティ *would* を加えた (2) では、*would* の使用により、前半の文で *might* のスコープ内に導入された *a wolf* を、代名詞 *it* が E タイプ照応の先行詞として参照できる。

本研究は、DTS による modal subordination の分析を念頭に、モダリティと照応を同時に扱うことができるよう、様相型である可能性 (possibility) と必然性 (necessity) を DTS に加え、拡張した体系として Modal DTS を提案する。照応の理論である DTS の特徴を活かし、一般的な照応解決 (anaphora resolution) に還元することを目指す。

2 提案手法

2.1 Modal DTS

Modal DTS は、既存の依存型に possibility と necessity の型を加えた体系である。新たに定義される型は、possibility に対応する \diamond (dia) と \blacklozenge (bkdia), necessity に対応する \square (box) と \blacksquare (bkbox) が該当する。*might* や *would* のようなモダリティは、 \diamond と \square により表される。 \blacklozenge と \blacksquare は 2 文目の意味表示に作用し、「1 文目のモダリティ内の命題の証明が、2 文目の証明で使用できる条件」を与える役割を担う。

2.2 Contextual Modal Type Theory

Modal DTS の \diamond と \square は、Contextual Modal Type Theory (CMTT)[5] の定義に従う。² CMTT は、直観主義様相論理 (Intuitionistic Modal Logic) に対して、構成的な手法で possibility と necessity に意味の説明を与える理論である。 \diamond と \square の規則群を、CMTT が提案する Intuitionistic Contextual Modal Logic (ICML) と Contextual Possibility から取り入れる。

¹ 文頭に置かれた「#」は続く文が不適切であることを示す
² 付録 (C) を参照されたい

2.3 規則群

DTS に新たに追加する規則群は 3 種類に分けられる。CMTT の構造規則、 \diamond と \square に関する規則、 \blacklozenge と \blacksquare に関する規則である。CMTT の構造規則は、Contextual Possibility に由来する **poss** 規則、hypothetical judgement に由来する **hyp** 規則、Contextual Validity に由来する **ctxhyp** 規則である。 \diamond と \square に関する規則は、形成則を新たに作成し、導入則と除去則を CMTT から取り入れる。 \blacklozenge と \blacksquare に関する規則は、Modal DTS において独自に定義したものである。

3 Modal DTS による分析

3.1 談話関係

modal subordination は、対象の 2 文が図 1 に示す談話関係に入ることによって初めて可能となる。記号を縦に並べた記法は、複数の規則を纏めたものである。1 文目と 2 文目にモダリティを伴うことが、談話関係に入る形式的な条件のため、(1) のように後件にモダリティを含まない場合や 2 文が離れる場合は、modal subordination が起きることはない。

$$\begin{aligned} \diamond M_1 ; \square M_2 &\equiv \diamond M_1 \times \blacklozenge \square M_2 \\ \square M_1 ; \square M_2 &\equiv \square M_1 \times \blacksquare \square M_2 \end{aligned}$$

図 1: Modal DTS における談話関係

3.2 分析例

本稿では分析例として、図 1 上段の規則を取り上げる。これは、前件が possibility の場合であり、具体的に以下の 2 文を対象とする。ここでは、意味表示における後件のモダリティをまとめて、図 2 のように扱う。 π_1 は組の第一要素を取り出す操作である。

- (2) A wolf might come in. It would growl.
- (3) A wolf might come in. It might growl.

$$\left[\begin{array}{l} v : \langle \Psi \rangle \\ \blacklozenge \Psi \langle \Psi \rangle \end{array} \left[\begin{array}{l} u : \left[\begin{array}{l} x : \text{entity} \\ \text{wolf}(x) \\ \text{comein}(\pi_1(u)) \end{array} \right] \\ w @ \left[\begin{array}{l} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \\ \text{growl}(\pi_1(w)) \end{array} \right] \end{array} \right]$$

図 2: 照応解決前の意味表示

DTS は、未指定型 (underspecified type)[6] を DTT に加えることで照応解決を可能にする。文の意味表示の型は、DTT における type でなければならないという制約 (semantic felicity condition) がある。そのため、型検査 (type checking) を行うことで、この制約を満たすか調べる。型検査の過程で、未指定項 @ を具体的な証明に置き換える操作が、照応解決にあたる。

対象となる 2 文の型検査を図 3 に示す。前述の制約を満たすか調べるため、図 3 の証明図を下から追う。

$$\begin{array}{c}
\vdots \\
\left[\begin{array}{c} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \end{array} \right] : \text{type} \quad \left[\begin{array}{c} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \end{array} \right] \text{poss } \langle \Psi \rangle \text{ true} \\
\vdots \\
\Psi : \text{type } \text{poss } \langle \Psi \rangle \quad \hline \quad \left[\begin{array}{c} w@ \left[\begin{array}{c} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \end{array} \right] \\ \text{growl}(\pi_1(w)) \end{array} \right] : \text{type } \text{poss } \langle \Psi \rangle \quad (\textcircled{A}) \\
\hline \quad \left[\begin{array}{c} [\Psi] \\ \langle \Psi \rangle \left[\begin{array}{c} w@ \left[\begin{array}{c} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \end{array} \right] \\ \text{growl}(\pi_1(w)) \end{array} \right] \end{array} \right] : \text{type } \text{poss } \langle \Psi \rangle \quad \left(\begin{array}{l} \square F \\ \diamond F \end{array} \right) \\
\hline \quad \blacklozenge \Psi \left[\begin{array}{c} [\Psi] \\ \langle \Psi \rangle \left[\begin{array}{c} w@ \left[\begin{array}{c} z : \text{entity} \\ \neg \text{human}(z) \end{array} \right] \\ \text{growl}(\pi_1(w)) \end{array} \right] \end{array} \right] : \text{type} \quad (\blacklozenge F)
\end{array}$$

図 3: 前件のモダリティが possibility である場合の型検査

最下段は、図 2 に示した照応解決前の意味表示で第二要素にあたる 2 文目の意味表示である。DTT において、 Σ 型の意味表示全体の型を type とするには、第一要素と第二要素の型がそれぞれ type でなくてはならない。1 文目のモダリティ *might* は、 \blacklozenge として 2 文目に作用しており、この \blacklozenge が ($\blacklozenge F$) により「1 文目のモダリティが 2 文目の証明で使用できる条件」にあたる $\text{poss } \langle \Psi \rangle$ を与える。($\square F$) と ($\diamond F$) により、2 文目の意味表示からモダリティ部分を分けられた後、 \textcircled{A} 型の推論規則である \textcircled{A} 規則を適用する。図 3 の証明図より、 $\text{poss } \langle \Psi \rangle$ 環境下において「何らかの entity z が $\neg \text{human}(z)$ である」という型の証明項が存在すれば、型検査は全体の文の意味表示の型が type であるという制約を満たす。

証明探索を行った結果は、付録 (A) を参照されたい。2 文目は 1 文目に依存して良いことから、1 文目の意味表示が利用できる。また、CMTT から採用した ($\diamond E$) はモダリティが外れた 1 文目の意味表示を仮定する役割を担い、 poss 規則は $\text{poss } \langle \Psi \rangle$ 環境に作用する。その結果、モダリティを含まない一般的な証明探索に帰着する。つまり、依存型の規則のみを使用して「何らかの entity z が $\neg \text{human}(z)$ である」という型の証明項を探索すれば良い。その際、「wolf ならば human でない」という情報を関数 f として文脈に用いる。ドット (\cdot) は、CMTT の記法であり、左右でスコープを分ける。

探索した証明項は型検査の証明図に代入される。未指定型に伴う変項 w が再帰的に置き換えられた結果、2 文目の代名詞 *it* の具体的な指示対象が判明し、図 4 の意味表示を得る。Modal DTS による照応解決は、以上である。前件のモダリティが necessity の場合は、付録 (B) を参照されたい。

$$\left[\begin{array}{c} v : \langle \Psi \rangle \left[\begin{array}{c} u : \left[\begin{array}{c} x : \text{entity} \\ \text{wolf}(x) \end{array} \right] \\ \text{comein}(\pi_1(u)) \end{array} \right] \\ \blacklozenge \Psi \left[\begin{array}{c} [\Psi] \\ \langle \Psi \rangle \text{growl}(letdia(v, \langle \Psi, v' \rangle. \langle \sigma, \pi_1 \pi_1(v') \rangle)) \end{array} \right] \end{array} \right]$$

図 4: 照応解決後の意味表示

4 おわりに

本研究は、様相型である possibility と necessity を DTS に加え、拡張した枠組みとして、Modal DTS を提案した。拡張にあたり、CMTT から一部の規則群を採用した。また、Modal DTS を用いて modal subordination を対象に分析を与え、モダリティを伴う照応の解決過程を示した。

今後の課題は、まず Modal DTS の様相論理としての形式的性質を明らかにすることが挙げられる。また、形式意味論では動的意味論をはじめ、数多くの理論が modal subordination の分析を与えており、これらの理論と Modal DTS の経験的な比較を行う必要がある。さらに、modal subordination 以外のモダリティを伴う言語現象について、本分析が拡張できるかどうか検討を要する。

謝辞

本研究は、JST CREST JPMJCR20D2 および JSPS 科研費 JP23H03452 の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] Daisuke Bekki and Koji Mineshima. Context-passing and underspecification in dependent type semantics. In Stergios Chatzikyriakidis and Zhaohui Luo, editors, *Studies of Linguistics and Philosophy*, pp. 11–41. Springer, 2017.
- [2] Per Martin-Löf. Intuitionistic type theory. Vol. 17. Bibliopolis, 1984.
- [3] Craig Roberts. Modal subordination and pronominal anaphora in discourse. In *Linguistics and Philosophy*, Vol. 12, pp. 683–721. Springer, 1989.
- [4] Gareth Evans. Pronouns. Vol. 11, pp. 337–362. 1980.
- [5] Frank Pfenning Aleksandar Nanevski and Brigitte Pientka. Contextual modal type theory. In *ACM Transactions on Computational Logic*, Vol. 9, pp. 1–49. 2008.
- [6] Daisuke Bekki. A proof-theoretic analysis of weak crossover. In *Proceedings of the 18th International Workshop on Logic and Engineering of Natural Language Semantics*. 2021.

C Modal DTS における規則群 (抜粋)

C.1 Π 型

$$\begin{array}{c}
 \overline{x : A}^i \\
 A : \text{type} \quad \vdots \\
 B : \text{type} \\
 (\Pi F), i \frac{}{(x : A) \rightarrow B : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{x : A}^i \\
 A : \text{type} \quad \vdots \\
 M : B \\
 (\Pi I), i \frac{}{\lambda x. M : (x : A) \rightarrow B}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : (x : A) \rightarrow B \quad N : A \\
 (\Pi E) \frac{}{MN : B[N/x]}
 \end{array}$$

C.2 Σ 型

$$\begin{array}{c}
 \overline{x : A}^i \\
 A : \text{type} \quad \vdots \\
 B : \text{type} \\
 (\Sigma F), i \frac{}{(x : A) \times B : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : A \quad N : B[M/x] \\
 (\Sigma I) \frac{}{(M, N) : (x : A) \times B}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : (x : A) \times B \\
 (\Sigma E) \frac{}{\pi_1(M) : A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : (x : A) \times B \\
 (\Sigma E) \frac{}{\pi_2(M) : B[\pi_1(M)/x]}
 \end{array}$$

C.3 CMTT の構造規則

$$\begin{array}{c}
 \Delta ; (\Gamma, x : A, \Gamma') \\
 (hyp) \frac{}{x : A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 u :: A[\Psi] \\
 \vdots \\
 \sigma : \Psi \\
 (ctxhyp) \frac{}{clo(u, \sigma) : A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \sigma : \Psi \quad M : A \\
 (poss) \frac{}{\langle \sigma, M \rangle : A \text{ poss} \langle \Psi \rangle}
 \end{array}$$

C.4 \diamond 型

$$\begin{array}{c}
 \Psi \text{ ctx} \quad M : \text{type} \\
 (\diamond F) \frac{}{\langle \Psi \rangle M : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 E : A \text{ poss} \langle \Psi \rangle \\
 (\diamond I) \frac{}{dia(E) : \langle \Psi \rangle A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{\Psi}^i \quad \overline{x : A}^i \\
 M : \langle \Psi \rangle A \quad \vdots \\
 E : B \text{ poss} \langle \Theta \rangle \\
 (\diamond E), i \frac{}{letdia(M, \langle \Psi, x \rangle. E) : B \text{ poss} \langle \Theta \rangle}
 \end{array}$$

C.5 \square 型

$$\begin{array}{c}
 \Psi \text{ ctx} \quad M : \text{type} \\
 (\square F) \frac{}{[\Psi]M : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{\Psi}^i \\
 \vdots \\
 M : A \\
 (\square I), i \frac{}{box(\Psi.M) : [\Psi]A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{u :: A[\Psi]}^i \\
 M : [\Psi]A \quad \vdots \\
 N : C \\
 (\square E), i \frac{}{letbox(M, u.N) : C}
 \end{array}$$

C.6 \blacklozenge 型

$$\begin{array}{c}
 M : \text{type} \text{ poss} \langle \Psi \rangle \\
 (\blacklozenge F) \frac{}{\blacklozenge \Psi M : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : A \\
 (\blacklozenge I) \frac{}{bkdia(M) : \blacklozenge A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{x : A}^i \\
 M : \blacklozenge A \quad \vdots \\
 N : B \\
 (\blacklozenge E), i \frac{}{cased_x(M, N) : B}
 \end{array}$$

C.7 \blacksquare 型

$$\begin{array}{c}
 \overline{\sigma : \Psi}^i \\
 \vdots \\
 M : \text{type} \\
 (\blacksquare F), i \frac{}{\blacksquare \Psi M : \text{type}}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 M : A \\
 (\blacksquare I) \frac{}{bkbox(M) : \blacksquare A}
 \end{array}
 \qquad
 \begin{array}{c}
 \overline{x : A}^i \\
 M : \blacksquare A \quad \vdots \\
 N : B \\
 (\blacksquare E), i \frac{}{caseb_x(M, N) : B}
 \end{array}$$